

学生支援サミット 2020 実施報告書

三重大学 学生総合支援センター



目次

1. はじめに … p.2

2. 学生支援サミット 2020 概要 … p.3

- 趣旨
- 目的
- テーマ・内容
- 主催
- 日時
- 参加申込者
- 当日のプログラム

3. 当日の参加状況 … p.5

- 学生・教員・職員の参加状況
- 当日のグループ構成

4. 当日の流れ … p.6

- 進行スライド

5. グループ発表 … p.10

- 各グループの発表
- 提言のまとめ
- 本企画に対するコメントまとめ

7. 資料 … p.28

- 学生支援サミット 2020 ポスター
- 三重大学ホームページ トピックス掲載記事

1. はじめに

三重大大学では、「学生支援サミット」と名付けたイベントを毎年開催しています。これは、今後の三重大大学の学生支援のあり方に関するビジョンを、学生、教員、職員がともに描き、共有し、それに基づいて三重大大学の今後の学生支援のあり方を検討する目的で、平成 24 年度より始まりました。毎回、テーマを設定し、参加者はグループに分かれて意見を出し合い、それを全員で共有します。

本年度の「学生支援サミット 2020」は、テーマを『三重大大学におけるオンライン授業の現状と課題』に設定し、オンライン授業の現状と課題、さらにオンライン授業を含めた今後の大学教育のあり方について検討するためにサミットを開催しました。学生や教職員の視点から見たオンライン授業についてのメリット・デメリット、オンライン授業が中心だった前期の大学生活を過ごした感想、それらを踏まえた上での今後の大学教育のあり方に対する提言について、学生と教職員が協働してディスカッションを行い、アイデアの発表を行いました。本報告書は、この活動と成果をまとめたものです。

サミットにおいて提言された、(オンライン授業を含めた) 今後のよりよい大学教育に関するアイデアを多くの方に知っていただき、学生生活環境の充実をはじめ、三重大大学の発展の寄与につながる資料としてご覧いただけることを心よりお願い申し上げます。

また最後となりますが、学生支援サミットの企画・運営に関わりご協力を頂いた皆さま、当日参加し貴重なアイデアを出して頂いた学生・教職員の皆さまに厚くお礼申し上げます。

学生総合支援センター

2. 学生支援サミット 2020 概要

○ 趣旨

年に一度、三重大大学の学生・教員・職員がともに大学をより良いものとして行くために協働して議論を行う機会として開催している。本年度は、テーマを『三重大大学におけるオンライン授業の現状と課題』に設定し、オンライン授業の現状と課題、さらにオンライン授業を含めた今後の大学教育のあり方について検討するためにサミットを開催した。

○ 目的

- ①新型コロナウイルス感染症対策として行われているオンライン授業について、その現状と課題を学生と教職員が主体的に検討する機会とする。
- ②大学での学習や生活をより生き生きとした望ましいものにできるよう、学生と教職員が協働する意識を育む。

○ テーマ・内容

『三重大大学におけるオンライン授業の現状と課題』を今年度のテーマとした。まず、学生支援サミットの企画趣旨の説明やオンライン授業に関する概説、学内におけるオンライン授業に関連した調査結果の共有を行った。その後、グループワークの課題として (1) オンライン授業のメリット・良かった点、(2) オンライン授業のデメリット・良くなかった点 (改善点)、(3) オンライン授業に対するその他の感想や、オンライン中心だった前期を過ごした感想、(4) メリット・デメリット・感想を踏まえた上での (対面とオンラインの両方を含めた) 今後の授業・大学教育のあり方への提言、の 4 点を提示し、学部別のグループごとに上記 4 点についてディスカッションを行った。グループごとに検討した意見や提言は資料にまとめ、グループごとの発表によって参加者全体での吟味を行った。

○ 主催

三重大大学 学生総合支援センター

○ 日時

令和 2 年 9 月 30 日 (水) 13:00 ～ 16:00 Zoom にて開催

○ 参加申込者

学生については、各学部への参加依頼や講義での周知等を通して募集した結果、合計 52 名から参加の申込があった。教員については、各学部への参加依頼や学内の会議・委員会での周知、ホームページ等での企画周知を行った結果、計 14 名から申込があった。職員については、学生支援チームより依頼を行い、計 10 名がエントリーした。

○ 当日のプログラム

13:00～13:10 (10 分)	開会の挨拶 三重大学学長 駒田美弘
13:10～13:20 (10 分)	学生支援サミットの活動内容の説明
13:20～14:30 (70 分)	自己紹介・グループワーク ※グループワークの内容： 学部ごとのグループに分かれ，(1) オンライン授業のメリット・良かった点，(2) オンライン授業のデメリット・良くなかった点（改善点），(3) オンライン授業に対するその他の感想や，オンライン中心だった前期を過ごした感想，(4) メリット・デメリット・感想を踏まえた上での（対面とオンラインの両方を含めた）今後の授業・大学教育のあり方への提言，の4点についてディスカッションを行い，共有された意見や提言をプレゼン資料にまとめる。
14:30～15:45 (75 分)	各グループのプレゼンテーション・質疑応答 ※各グループのプレゼンテーション： グループワークで作成したプレゼン資料を画面共有しながら 3,4 分を目処に発表を行う。
15:45～15:55 (10 分)	総括コメント 教育担当理事 山本俊彦
15:55～16:00 (5 分)	閉会の挨拶 学生総合支援センター長 野崎哲哉

3. 当日の参加状況

○ 学生・教員・職員の参加状況

学生支援サミット当日の参加者数は、学生 52 名、教員 31 名、職員 18 名の、計 101 名であった（表 1）。参加学生の学部内訳は表 2 にまとめた。

○ 当日のグループ構成

当日は参加者の所属学部や部署等を考慮し、以下の全 14 グループを編成した。

- グループ 1：人文学部グループ①（学生 4 名）
- グループ 2：人文学部グループ②（学生 4 名）
- グループ 3：人文学部グループ③（学生 2 名、教職員 4 名）
- グループ 4：教育学部グループ①（学生 5 名）
- グループ 5：教育学部グループ②（学生 5 名）
- グループ 6：教育学部グループ③（学生 2 名、教職員 4 名）
- グループ 7：医学部グループ①（学生 4 名）
- グループ 8：医学部グループ②（学生 6 名）
- グループ 9：医学部グループ③（学生 2 名、教職員 4 名）
- グループ 10：工学部・工学研究科グループ①（学生 4 名）
- グループ 11：工学部・工学研究科グループ②（学生 4 名）
- グループ 12：工学部・工学研究科グループ③（学生 4 名、教職員 4 名）
- グループ 13：生物資源学部グループ①（学生 5 名）
- グループ 14：生物資源学部グループ②（学生 2 名、教職員 4 名）

表1 学生支援サミット2020参加者数

属性	参加者数
学生	52名
教員	31名
職員	18名
合計	101名

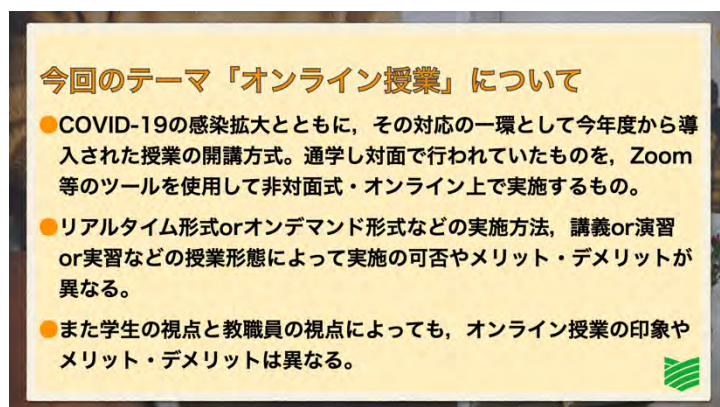
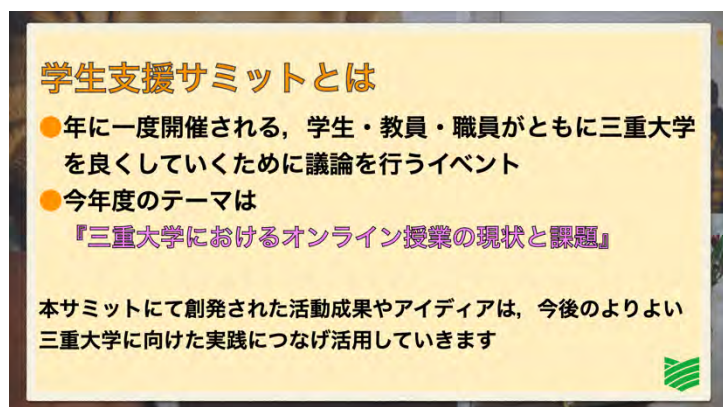
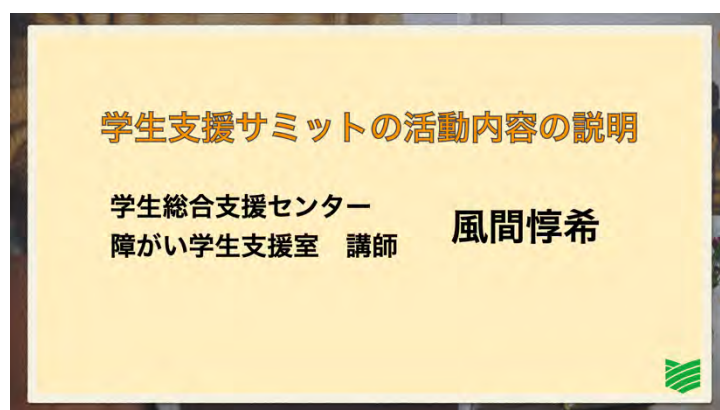
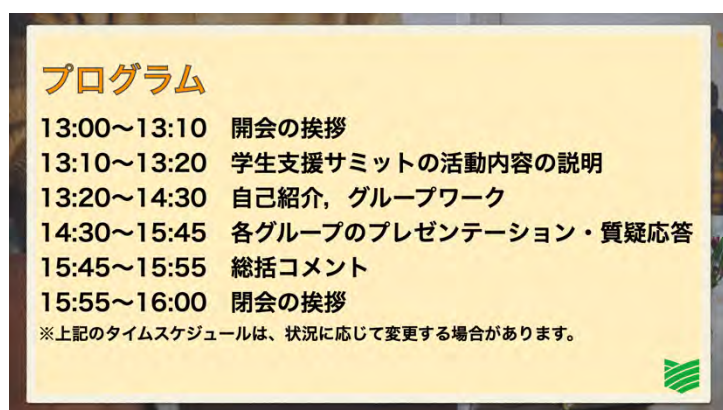
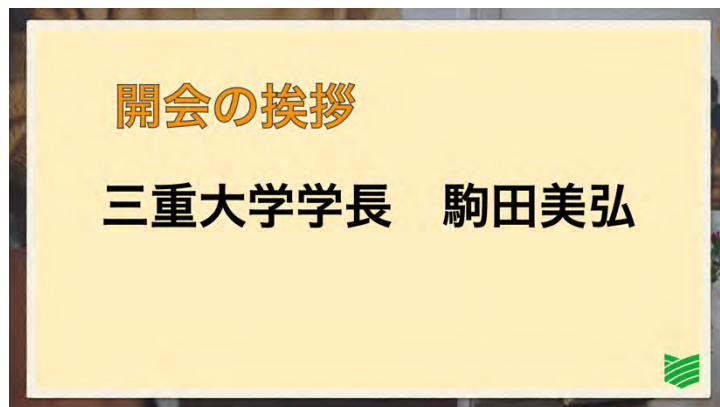
表2 参加学生の内訳

学部・研究科	参加者数
人文学部	10名
教育学部	12名
医学部	12名
工学部・工学研究科	11名
生物資源学部	7名
合計	52名

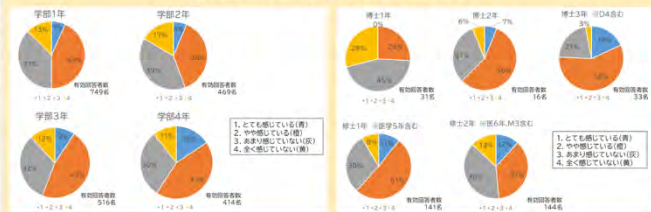
4. 当日の流れ

○ 進行スライド

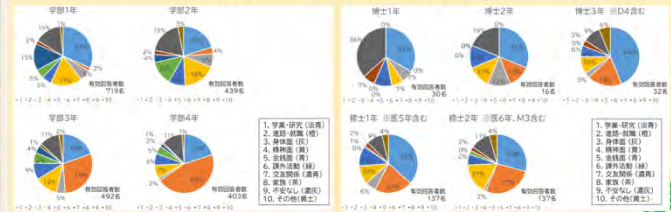
当日は以下のスライドの通りに進行を行った。



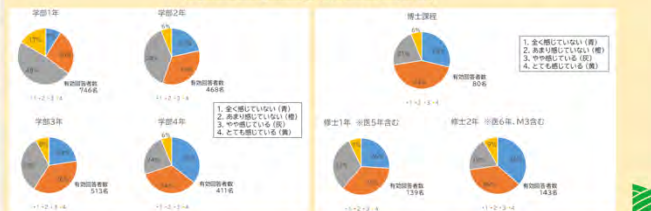
●「みんな、元気にしてる？」調査（2020年5月実施）から
現在、不安を感じているか



●「みんな、元気にしてる？」調査（2020年5月実施）から
何に不安を感じているか



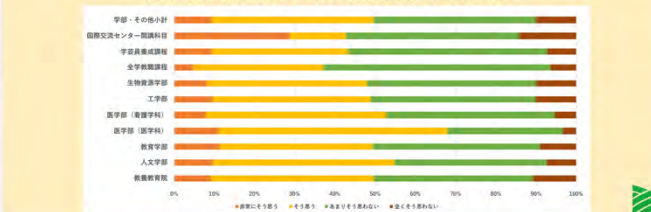
●「みんな、元気にしてる？」調査（2020年5月実施）から
オンライン授業への不安



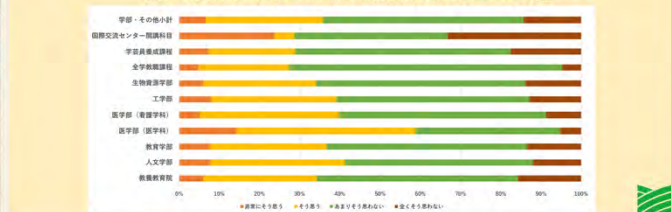
●「みんな、元気してる？」調査（2020年5月実施）から
オンライン授業への不安（要因）



●学びのふりかえりアンケート（2020年7月実施）から
対面授業と比べて理解が深まったか



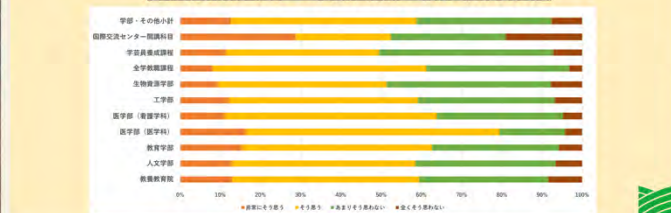
●学びのふりかえりアンケート（2020年7月実施）から
対面授業と比べて学習意欲が上がったか



● 学びのふりかえりアンケート（2020年7月実施）から
対面授業と比べて疲れたか

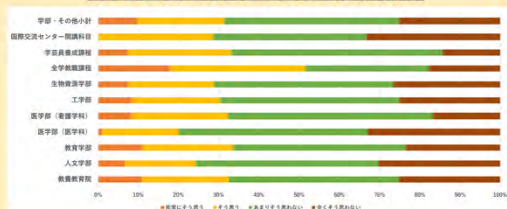


●学びのふりかえりアンケート（2020年7月実施）から
対面授業と比べて積極的に取り組んだか



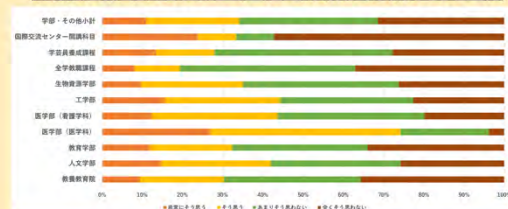
三重大大学でのオンライン授業の現状（アンケートデータ）

●学びのふりかえりアンケート（2020年7月実施）から オンライン授業への心理的抵抗感



三重大大学でのオンライン授業の現状（アンケートデータ）

●学びのふりかえりアンケート（2020年7月実施）から 後期や来年度もオンライン授業を受講したいか



三重大大学でのオンライン授業の現状（アンケートデータ）

以上の調査結果から…

- 年度当初は多くの学生が不安を感じており、特に1年生は友だち関係やこれからの勉強に不安を感じていた。学年が上がるにつれて進路・就職面での不安が高くなっていった。
- オンライン授業への不安もあり、学年が低いほど友だちと会えないことが不安の重大なファクターであった。また、モチベーションを保つことへの不安は全学生共通だった。
- オンラインへの変更は理解度にあまり影響なし。一方、学生側は積極的に取り組んだ様子だったが、学習意欲が保ちにくく、疲れを感じやすい環境であった可能性がある。
- オンライン授業への抵抗感は減ってきているが、対面を望む気持ちがやや優勢か。また、何を学ぶかによっても意見は異なる。

- ➡ オンライン授業に対する思いは、置かれた状況（学部/学年）によって異なる
- ➡ 教職員側はどういう思い（メリットやデメリット、感想）を感じているか

そこで…今回のグループワークの課題

今後のより充実したオンライン授業を実施していくために

- オンライン授業のメリット・良かった点
 - オンライン授業のデメリット・良くなかった点（改善点）
 - オンライン授業に対するその他の感想や、オンライン中心だった前期を過ごした感想
 - メリット・デメリット・感想を踏まえた上での（対面とオンラインの両方を含めた）今後の授業・大学教育のあり方への提言
- について、学部ごとのグループで話し合いました！

課題に取り組む際の留意点①

- グループは学部ごとの学生と教職員に分かれて話し合ってもらいます。
- 話し合った内容は、Moodleコース「学生支援サミット2020」にアップされているプレゼン用のパワーポイントファイルにまとめてください。それを使いながら、後のプレゼンを行ってもらいます。

本サミットの成果のイメージ

	メリット (良かった点)	デメリット (良くなかった点・改善点)	その他の課題 総論を踏まえた感想
学生（によって）	～～～ ・○○	～～～ ・□□	～～～ ・△△
教職員（によって）	～～～ ・△△	～～～ ・□□	～～～ ・△△

学生と教職員の両者にとって
満足のいく今後のよりよい
授業・大学教育のありかたへの提言

課題に取り組む際の留意点②

- まずはグループメンバーで自己紹介をしていただき、主な司会・進行役や書記役などを決め、適宜プレゼン資料のファイルを画面共有しながら話し合ってください。グループに割り振られた教職員の皆様には、グループワークが円滑に進むよう、ファシリテートをお願いできますと幸いです。
- プレゼン資料フォーマットは適宜レイアウトなどアレンジしてください。また、ファイルをメンバーで共同作成する場合の解説資料もアップしてあるので、分担しながらプレゼン資料を作成する際にご活用ください。
- ご不明な点がありましたら、「ヘルプを求める」でお知らせください。
- グループワークの時間は70分と設定しましたが、議論の状況を見て適宜短縮する場合もあるかもしれません。その場合はチャットでお伝えします。

グループ構成

- グループ1：人文学部グループ①
- グループ2：人文学部グループ②
- グループ3：人文学部グループ③
- グループ4：教育学部グループ①
- グループ5：教育学部グループ②
- グループ6：教育学部グループ③
- グループ7：医学部グループ①
- グループ8：医学部グループ②
- グループ9：医学部グループ③
- グループ10：工学部・工学研究科グループ①
- グループ11：工学部・工学研究科グループ②
- グループ12：工学部・工学研究科グループ③
- グループ13：生物資源学部グループ①
- グループ14：生物資源学部グループ②



グループワークからプレゼンテーションの流れ

【グループワーク】（70分）

- ・自己紹介
- ・ディスカッション（オンライン授業のメリット・デメリット、その他感想、それらを踏まえた上での提言について議論・検討）

【グループ発表・質疑応答】（75分）

- ・グループの1番目（人文学部グループ①）から順番にプレゼン
- ※発表時間の目安：3，4分程度
- プレゼン資料を画面共有しながら発表

グループワーク

各グループのプレゼンテーション 質疑応答

総括コメント

教育担当理事 山本俊彦

閉会の挨拶

学生総合支援センター長 野崎哲哉

多くの方にご参加いただき、
誠にありがとうございました。

各グループで作成していただいたプレゼン資料は、
Moodleコースの「プレゼン資料の提出用フォーラム」にグ
ループが分かる形でご提出ください。
報告資料や提言用資料として有効に活用させていただきます。

5. グループ発表

○ 各グループの発表内容

【グループ1:人文学部グループ①】

オンライン授業のメリットとして時間の使い方が自由になったこと、デメリットとして授業準備や心身の疲労といった学生側の負担を中心に挙げていた。また、前期を過ごした感想として、友だちと会えないことやモチベーションの保ちにくさ、負担の大きさ等があった。その上で、対面を基本としたオンラインと対面授業の併用、教員とのやりとりを増やす等の今後への提言がなされた。



オンライン授業のメリット・良かった点

- ・登校時間がかからない→登校時間に充てていた部分を他のことに使えたり、時間にゆとりを持てる
- ・オンデマンドだと好きな時間に見れて、見返することができる

時間の使い方がより自由に

オンライン授業のデメリット・良くなかった点 (改善点)

- ・オンラインならではのタイムラグなどによりグループワークが大変
- ・長時間画面を見ることで身体的な疲労が溜まる
- ・自分で印刷したりコンビニに行く必要があったりするため、レジュメの準備が大変
- ・自宅での授業環境を整える必要がある
- ・オンデマンドの授業を溜めがち
- ・授業前後で他の学生と話することがないため、友達作りの場がなくなる

授業外での準備（環境整備など）が大変
身体的な疲労や交友関係に関する精神的な疲労も

オンライン授業に対するその他の感想・ オンライン中心だった前期を過ごした感想

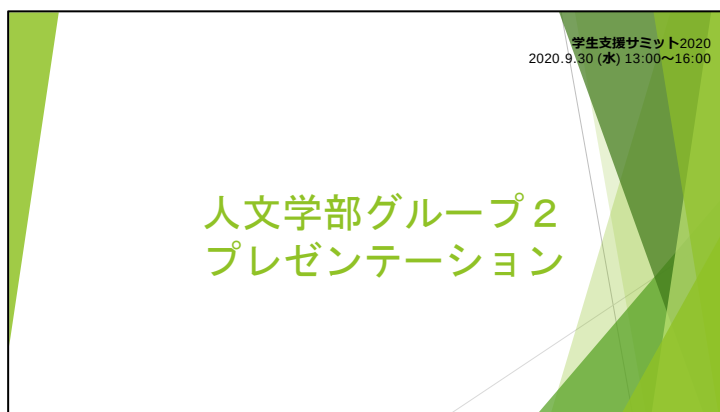
- ・友だちに会えないことによる寂しさ
- ・自分の部屋で授業を受けることで、モチベーションが保ちにくい
- ・リアルタイムのオンライン授業の負担が重い
- ・対面授業よりオンライン授業のほうが課題が多く、大変
- ・実験や実習が人文学部には基本ないので、理系学部と比べてオンラインのデメリットは少なかったのでは？

メリット・デメリット・感想を踏まえた上での (対面とオンラインの両方を含めた) 今後の 授業・大学教育のあり方への提言

- ・対面授業を基本にして、補講などをオンライン授業やオンデマンド形式にする
→ネット形式をサブで使うのは??
- ・レポートに対するフィードバックが欲しい
- ・もっと先生とのコミュニケーションを取りたい
- ・今後、オンラインでのグループワークやディスカッションが増えると思うので、GWを扱う授業が増えるといいと思う

【グループ2:人文学部グループ②】

オンライン授業のメリットとして自分のペースで履修できることや気軽に質問できること、デメリットとして学生側の経済的または心身の負担が大きいことや集中・モチベーションの保ちにくさ等を中心に挙げていた。また、前期を過ごした感想として、友だちと会えないことや課題の負担が大きかったこと、就活やゼミ選びの難しさ等を報告した。その上で、対面授業とオンライン授業の日を分けることや授業にあたっての費用面での支援、図書館を使わせてほしい等の今後への提言がなされた。



オンライン授業のメリット・良かった点

【学生にとって】

- ▶ 巻き戻して講義内容が聞けた（オンデマンド）
- ▶ 時間、交通費節約
- ▶ チャット機能で気軽に質問できる（zoom）
- ▶ グループ分けが迅速（zoom）
- ▶ 周りの目を気にせず授業を受けれる
- ▶ 自分のペースで勉強できる（オンデマンド）
- ▶ 予習しやすい（プリントがもらえた時）
- ▶ zoomでの授業内容を録画してのちに見れる

オンライン授業のデメリット・良くなかった点（改善点）

【学生にとって】

- ▶ 用紙代、インク代、インターネット設備などの費用がかかる
- ▶ （生徒側と先生側ともに）通信障害（zoom）
- ▶ 集中力の散漫
- ▶ 腰、目などの疲労
- ▶ モチベーションの維持
- ▶ グループワークでの会話（重なる、しゃべりにくい）
- ▶ ペース配分（オンデマンド）

オンライン授業に対するその他の感想・オンライン中心だった前期を過ごした感想

【学生側の感想】

- ▶ 限られた友好関係になる
- ▶ 友達が居る環境の方が集中力、モチベーションが保てる
- ▶ 図書館を開けてほしい（勉強スペース）
- ▶ 課題が多くてしんどかった
- ▶ 就活の状況がつかみにくい（友達など）
- ▶ ゼミ選びが難しかった（雰囲気など）

メリット・デメリット・感想を踏まえた上での（対面とオンラインの両方を含めた）今後の授業・大学教育のあり方への提言

- ▶ 今後、対面（ゼミなどコミュニケーションをとる授業では）を少しずつ取り入れてほしい。
- ▶ Zoom+録画公開の授業形態
- ▶ 対面授業がある日とオンラインの日を分けてほしい。
- ▶ 画面共有を上手く活用してわかりやすく（ホワイトボード、ペン機能）
- ▶ もう少し授業を受けるにあたっての支援をしてほしい（用紙代、インターネット設備の費用など）
- ▶ 図書館の利用

【グループ3:人文学部グループ③】

オンライン授業のメリットとして時間を自由に使えること（学生側）や授業を提供できること（教職員側）、デメリットとしてパソコンを媒体とすることによる授業への影響（学生側）や学生の反応を見られないこと（教職員側）等を中心に挙げていた。また、前期を過ごした感想として、学生も教職員も新鮮な機会となった一方、学生らしくない生活だったことやキャンパスが寂しかった等の戸惑いも報告された。その上で、状況を鑑みてのオンラインと対面授業の併用や学内施設の利用等の提言がなされた。

学生支援サミット2020
2020.9.30 (水) 13:00~16:00

人文学部グループ③ プレゼンテーション

オンライン授業のメリット・良かった点

【学生にとって】

- ・ 自分の好きな時間に見られる。好きな部分が見られる。スピード調節可能。
- ・ 通学時間の削減
- ・ チャット機能などを使って質問がしやすかった

【教職員にとって】

- ・ （オンデマンドの場合）時間を気にしなくて良いで、話す内容の濃淡をつけやすい。
- ・ 大学を閉鎖することなく、授業が行える

オンライン授業のデメリット・良くなかった点（改善点）

【学生にとって】

- ・ 自宅で集中しにくい
- ・ 画面を見続けなければならないので疲れやすい、視力低下の可能性も
- ・ インターネット接続の不安定さで授業の質に差
- ・ 図書館が使えない
- ・ パソコン操作機能の不安
- ・ 友人に会えず、コミュニティが狭まる
- ・ オンライン上での会話がしにくい(初対面だと一層)

【教職員にとって】

- ・ 授業準備に時間がかかる(30~40%増)
- ・ 資料が使づらい 著作物などの資料を学生に見せづらい(ダウンロードの場合など)
- ・ 学生の顔、反応が見られない ビデオオンにしても反応を全て見られない
- ・ 公平な試験がしづらい 試験提出ルールに制限を設けた 学生が不正行為を行える環境であった
- ・ 授業開始前に、先生同士で相談などをしながら機能の練習などを行った

オンライン授業に対するその他の感想・ オンライン中心だった前期を過ごした感想

【学生側の感想】

- ・ 新鮮な教育機会
- ・ キャンパスに行けないので学生らしくない生活だった

【教職員側の感想】

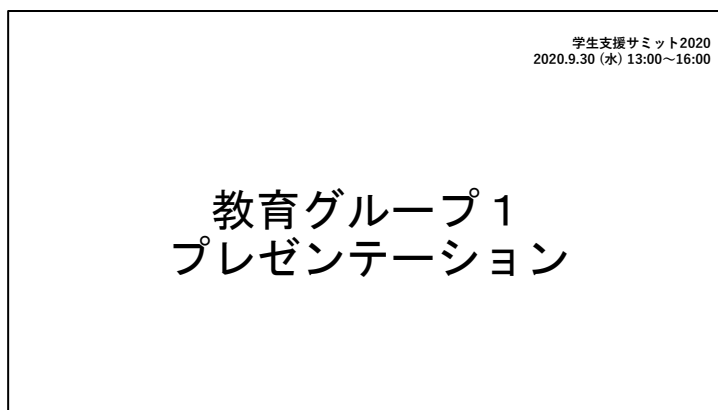
- ・ ITツールなど慣れるのが大変だった
- ・ 経験の一つとして面白かった
- ・ キャンパスが寂しかった
- ・ 手続きが電子化 今後につながる
- ・ 図書館がフル活用できない 十分なサポートができない

メリット・デメリット・感想を踏まえた上での （対面とオンラインの両方を含めた）今後の 授業・大学教育のあり方への提言

- ・ 各々の内容にあった授業スタイル(対面・オンライン)を
- ・ 感染対策を徹底した上で対面も可能な時期なのでは
- ・ 感染症が終結するまで(線引きが難しい)は、オンラインのみで
- ・ 施設は存分に使用してほしいが、クラスターなど危惧

【グループ4:教育学部グループ①】

オンライン授業のメリットとしてオンデマンド授業では見返しができることや登校時間が削減されること、ICTスキルが上がること等を、デメリットとして急な予定変更への対応やメール管理の難しさ、学生間のやりとりが難しいこと、下宿代や交通費に困る等を中心に挙げていた。また、前期を過ごした感想として、満足派と不満派の両者がいたことが報告された。その上で、課題を出しすぎないでほしいことや、学生がオンラインか対面を選ぶような設備環境を整えること等の提言がなされた。



オンライン授業のメリット・良かった点

【学生にとって】

- ・一般教養の英語の発音→マイクミュートだとしやすい
- ・録画を上げてくれる→見返しができる
- ・登校しなくてよい→時間短縮されて、課題の時間が増える。
- ・スライドのみで声だけの講義
→それがいいという人も一定数いる？（楽に単位を取れる）
- ・課題提出などがほとんどオンライン
→ICT関連のスキルが上がる
→印刷しなくてよい。紙・インクの節約に
- ・YouTubeなどで視聴する場合も→速度などを変えて、自分に合わせられる
- ・アカデミックハラスメントのような先生→物理的な距離がある

オンライン授業のデメリット・良くなかった点（改善点）

【学生にとって】

- ・3年生の教育実習
→急な予定変更・メールで通達（仕方のないことではあるが困る）
- ・友達ができない→友達に分らないことなど聞けない
- ・人によって変わる通信環境
→Zoom落ちたりする。意見が聞きにくい
- ・グループワークがある授業→喋らない人はとことん喋らない
- ・たくさんの連絡がメールで来る→管理がとても難しい
- ・下宿勢→光熱費がとても高くなった
- ・通いの生徒→定期を買った方がいいのか、買わない方がいいのか

オンライン授業に対するその他の感想・オンライン中心だった前期を過ごした感想

【学生側の感想】

- ・総合的に見てオンラインの前期に満足派
→通学時間の短縮・自分のしたいこと（家で）ができる
→勉強時間（院試勉強）がとても増えた
- ・総合的に見てオンラインの後期に不満派
→授業後の空き時間などは、先輩や同期と交流したかった
→土日が潰れる勢いの課題（まとまった時間が取れなかった）

メリット・デメリット・感想を踏まえた上での（対面とオンラインの両方を含めた）今後の授業・大学教育のあり方への提言

【提言】

- ・オンラインだからと言って課題を出しすぎないでほしい
→（先生が分かっているのか不安なのは分かるが・・・）
- ・対面とオンラインの両立について
→後ろにカメラなどを置いて、対面で受けるかオンラインかそれぞれが選択できたらより良くなるのでは？

【感想】

- ・オンラインになれていない先生もいらっちゃった
→授業が止まることも・・・お疲れさまでした！
- ・テストがなくなる→全てレポート評価でいいのか？

【グループ5:教育学部グループ②】

オンライン授業のメリットとして通学時間や費用がかからないことや資料が見やすくなったこと等を、デメリットとして実技・実習系の授業への影響やパソコンやネット使用に関わる難しさ等を中心に挙げていた。また、前期を過ごした感想として、友だちと会えなかったことや実習がなくなったことによる将来への不安が報告された。そして、調査結果の学生へのフィードバックの増加や、対面とオンラインの柔軟な併用と教員とのやりとりを増やしてほしい等の提言がなされた。

学生支援サミット2020
 2020.9.30 (水) 13:00~16:00

教育学部グループ2 プレゼンテーション

井上麻衣 中柄俊介 山口兼人
清水舞 羽生岳志

オンライン授業のメリット・良かった点

【学生にとって】

- 家が遠い人は**通学時間**を気にせず、**通学費**もかからない
- 自分の時間が増えたので**実習の準備**がしっかりできた。
- 授業の資料が板書からデータになり**見やすくなった**。
- **忘れ物**をする心配がなくなった。
- **睡眠時間**が長くなった。
- **チャット**で活発な意見交流ができる。(手を上げるより効率が良い)
- **オンデマンド**だと自分の好きな時間で見れて、復習もしやすい
- 介護等の**連絡**はスムーズだった。

オンライン授業のデメリット・良くなかった点 (改善点)

【学生にとって】

- 画面の見過ぎで**目が疲れる**。
- 回線が途切れることで授業で**大事なところを聞き逃したりする**。
- **タイムラグ**によって同時に歌うこと(合唱)ができない(音楽科)
- **実習系**の授業が短縮してしまった。
- 前期できなかった分の授業の影響で**後期への負担**が増えた。
- ゼミでの話し合いで**回線混雑**などでスムーズにいかないことがある
- 授業資料の**印刷**が自分でしなければならない。

オンライン授業のデメリット・良くなかった点 (改善点)

- **課外活動、実地活動**の中止
- 画面オフにしていると**相手の表情が見えず**、妙な緊張感。
- 授業でも**ツールを統一**してほしい。
- 介護等の**代替措置**の説明がきていない

教育実習のデメリット・良くなかった点 (改善点)

- 介護等の**代替措置**の説明がきていない
- 教育実習の**事前実習は模擬授業**だったので、イメージが湧きづらかった。
- 教育実習の事前実習に**差があること**。
- 教育実習準備で、**学校の様子**が分からない。
- オリテンがオンライン→いつもと違うツールで**混乱が生まれた**。

オンライン授業に対するその他の感想・オンライン中心だった前期を過ごした感想

【学生側の感想】

- 家から出ないので楽だが、友達と会えないので**精神的にしんどい**
- 勉強の面で言えばカバーされているが、その他の面(**人間関係**等)ではカバーが十分でない。
- 下宿ではなく実家に帰ることで授業を受けながら介護などの**手伝い**が出来たのが良かった。
- 授業をたくさん入れても自分の時間に余裕が出来たのはよかったが、**大学生ならではの楽しさ**がなかった。
- 授業が画面を見続けるので**疲れてしまう**。
- 実習がない→将来の選択の不安

メリット・デメリット・感想を踏まえた上での(対面とオンラインの両方を含めた)今後の授業・大学教育のあり方への提言

- アンケートで1年生以外の回答数が急に少ない→**フィードバックの充実**が必要では
- 1年生が不安が一番感じているのにこのサミットに**上級生が多い**のはどうなのか
- **チャット機能**をもっと活用していくべき。
- オンラインと対面が**どちらもある日の対応**→喋れないのはきついで喋れるような工夫を。
- **先生とのやり取り**があまりなかったのもっとあるといいと思う。(人数の工夫も)

【グループ6:教育学部グループ③】

オンライン授業のメリットとして通学時間の削減や発表・質問のしやすさ（学生）、情報提示や共有のしやすさ（教職員）を、デメリットとして友だち同士や学生と教職員とのやりとりが難しいこと等を中心に挙げていた。また、前期を過ごした感想として、実感が少ない生活だったこと（学生）や学生と関われないことが残念だったこと（教職員）等が報告された。その上で、今後に向けた提言として、対面授業やインフォーマルな場での学生と教職員が会う機会の増加、オンライン授業をうまく取り入れること等がなされた。

学生支援サミット2020
2020.9.30 (水) 13:00~16:00

教育学部グループ3 プレゼンテーション

【教職員にとって】

- 情報提示や資料配布が楽にできた。紙ベースだと配布する量などの調整が難しいが、電子的に提示できる場合はそれを考えなくてよい。
- オンデマンド教材だと聞き逃しがないので、理解度はあがったのではないかな。
- Microsoft Teamsの場合、グループ間で情報交換したりなどの高度なグループワークができた。ファイルの共同編集ができた（オフラインではできない）。
- 画面の提示・共有・ホワイトボード機能を利用すると、対面とほとんど同じサービスが提供できた。
- Moodleが身近になった。学生さんへの連絡がスムーズにできた。
- 作品などを事前に課題を提出するので、じっくり見ることができて、きちんと評価できた（対面の場合だと授業時間内だけで見ることになる）。

【教職員にとって】

- 学生さんのネットワーク環境が悪い場合の対応が大変だった。
- 学生との（授業以外のことについての）会話をする機会がとれなかった。
- 学年の雰囲気づくりが難しかった。先輩・後輩のコネクションを作ったりするのが難しい。
- 顔を出さない場合の学生さんの状態がよく分からない。
- 学生さんの反応が見えない。
- オンラインに伴い初めての試みが多かったもので、軌道に乗るまでが大変だった（学生への連絡など）。
- 実技系については、直接伝えることができない点がデメリット。

【教職員側の感想】

- 急にオンラインになったので、準備・対応が大変だった。
- 非常勤の先生方への対応が大変だった。
- 最初は大変だったが、慣れれば大丈夫だった。
- 事務において、例年通りにいかないの、すべての作業を今年度は新しく考えていく必要があった。
- 学生さんと関わる機会がなかったのは残念。
- オンライン授業は自宅からできることがよかった。

オンライン授業のメリット・良かった点

【学生にとって】

- 通学の時間（1時間ちょっと）が減ったので、家族と過ごす時間が増えた。
- 満員電車に乗る必要がなくなったので、助かった。
- 発表はオンラインの方がやりやすい。
- 質問がしやすかった。ホワイトボード機能などで、具体的に質問の箇所を指して質問できた。
- Zoomの機能でもグループワークができて、楽しかった（対面の場合は5・6人だと距離が遠くなるが、オンラインではそうしたことはない）。
- 先生がより丁寧に情報発信やケアをしてくれるようになった（オンラインの形態が初めてなので、教員がより情報提供に注意するようになった）。

オンライン授業のデメリット・良くなかった点（改善点）

【学生にとって】

- 授業前後で友達と話をする機会がなかった（それが大事だと知った）。
- グループワークを開始するきっかけが見つからなかったの、タイムロスがあった。
- 対面のときは友達に相談しやすかった。オンラインの期間は友達との連絡が気軽にとれなかった。
- 先生によって授業の形態（出席などについての決まり事）が異なるので、特に、慣れるまで大変だった。

オンライン授業に対するその他の感想・オンライン中心だった前期を過ごした感想

【学生側の感想】

- 学年があがった実感が無い。ただ、前期の授業が終わっただけ。
- 授業での課題が多かった。
- 教育実習について、急に中止になったので、急な代替案での実施で混乱が生じた。
- 教育実習について、9月いっぱい実習を行うつもりだったので、規模が小さくなったので残念。

メリット・デメリット・感想を踏まえた上での（対面とオンラインの両方を含めた）今後の授業・大学教育のあり方への提言

- 対面授業を増やしてほしい（学生さん）
- オンライン授業を実施するという連絡を早くしてほしかった（下宿するかしないかなどに影響した）
- 学生さん・教員がインフォーマルに会う機会がなかったので、増やした方がよい。
- 対面とオンラインをうまくスケジュールして組み合わせられるとよい。
- 今年の経験を踏まえて、新しい形態としてオンライン授業を取り入れていくべき。

【グループ7:医学部グループ①】

オンライン授業のメリットとして Moodle のバージョンが統一されたことやコストが下がったこと、質問のしやすさや周りを気にしないで済むこと等を、デメリットとして実技の難しさや接続状況の不安定さ、出席確認のテストを実施することへの疑問等を中心に挙げていた。また、前期を過ごした感想として、試験体制の変更とそれに伴う達成度への不安、楽に取り組めた等が報告された。その上で、教員側のトラブルに対するバックアップ体制の整備や休憩時間の確保、学年に応じて試験・評価制度を調整すること等の提言がなされた。

学生支援サミット2020
2020.9.30 (水) 13:00~16:00

医学部グループ1 プレゼンテーション

オンライン授業のメリット・良かった点

【学生にとって】

- Moodleのバージョンが統一（特に下級生？）
- 配布プリントがなくなった（エコ、課題の猶予）
- 通学コストが下がった（時間の有効活用、身支度、実家でも受けられる）
- チャットは質問しやすい、その場で回答がある（プライベート機能）
- 座席の優劣がない、画面が見やすい
- 教材を参照しながら
- 他人の私語が気にならない
- 外部教員のコスト削減
- 全体への周知が簡単に（特に学年を超えて） 録画も可能

オンライン授業のデメリット・良くなかった点（改善点）

【学生にとって】

- 顔が見えない？教員のデメリットかも
- ミュート忘れ（改善してる）
- 接続状況が不安定（学生も教員も）
- スライドが止まる→対策：スタッフが確認、学生が伝える
- 実技はオンラインでは限界がある
- 外出したい 健康面
- 緊張感がない だらけやすい モチベーション
- 出席・受講態度の確認が難しい
- 勉強進捗がわからない
- 2年生は対面予定がない
- 画面を見ている時間が長い
- 出席確認のテストの意味があまりないのでは

オンライン授業に対するその他の感想・オンライン中心だった前期を過ごした感想

【学生側の感想】

- 試験体制の変更が多い
- 変更後の試験の達成度 このまま進級して大丈夫？（特に下級生）
- 楽になった（身支度、生活リズム、学習環境）→時間を有意義に使えるかどうかの差が広がった
- モチベーションが下がらない人（特に上級生）にとっては便利
- 医学科と他学部がちがって？（居住地、学習環境、コマ数、設備、友達と取る講義が違う、私語）

メリット・デメリット・感想を踏まえた上での（対面とオンラインの両方を含めた）今後の授業・大学教育のあり方への提言

- 講義について
 - 教員側のトラブルをスタッフがバックアップする（改善しつつあるので不要？）…ミスの防止、早急な対応
 - 教員内でフィードバックを共有しておく
 - 1コマを短く または休憩を頻繁に
- 試験について
 - 4年生 現状通りがいい 理解が深まる
 - 2年生 定期的な高頻度の小テスト（調べながらも可）、moodleアンケートの活用、時間制限、評価方法

【グループ8:医学部グループ②】

オンライン授業のメリットとして Moodle のバージョンが統一されたことやコストが下がったこと、質問のしやすさや周りを気にしないで済むこと等を、デメリットとして実技の難しさや接続状況の不安定さ、出席確認のテストを実施することへの疑問等を中心に挙げていた。また、前期を過ごした感想として、試験体制の変更とそれに伴う達成度への不安、楽に取り組めた等が報告された。その上で、教員側のトラブルに対するバックアップ体制の整備や休憩時間の確保、学年に応じて試験・評価制度を調整すること等の提言がなされた。

学生支援サミット2020
2020.9.30 (水) 13:00~16:00

医学部グループ② プレゼンテーション

オンライン授業のメリット・良かった点

【学生にとって】

- ・自分に合った環境で受講することができるので対面授業よりも集中できる。
- ・授業を聴きながら辞書を引いたりネット検索することができるので学習効率が上がる。
- ・手を上げる必要がないため対面よりも活発に抵抗なく質問ができる
- ・時間のコスト削減になる。外の環境に左右されない。
- ・外出機会が減ってゆったり生活することができた。空き時間を有効活用することができた。

オンライン授業のデメリット・良くなかった点 (改善点)

【学生にとって】

- ・インターネット環境や家庭の環境、パソコンの知識の程度によっては授業が満足に受けられない。
- ・余分なコスト(印刷費用)がかかる。
- ・友人と関わる機会がなく、人間関係の希薄化。
- ・友人との会話の機会の減少により、自分たちが十分に授業内容を理解しているのか、自分の進捗が確認しづらい。会話を通じた成長の機会が減る。
- ・講義中の態度が悪くなってしまう、講義に対するモチベーションの持続が難しい。
- ・資料の配信が遅いなど、教員の対応(教員自身も手探り)。
- ・長時間のVDT作業による疲労感

友人との会話の中で培われる看護観が...

オンライン授業に対するその他の感想・ オンライン中心だった前期を過ごした感想

【学生側の感想】

- ・人間関係に関する不安が大きい。
- ・プライベートな環境で、授業自体は集中しやすくなったが、十分な環境が整えられなかったり、対人面での成長が不十分になった。
- ・下宿の必要がなくなったため、家族がいる家で生活できていたのは良かったが空家賃になるのが辛かった。
- ・グループワークなどでは雑談が多く雰囲気が緩んでいた。レジュメを読んでいるのみの講義だと面白くなく、授業に対する関心の持続が難しかった。ただ対面授業に比べて楽ではあった。

メリット・デメリット・感想を踏まえた上での (対面とオンラインの両方を含めた) 今後の 授業・大学教育のあり方への提言

- ・先述した様々な理由により授業を満足に受けられない環境下では、授業用資料の提供を前もって済ますなどスムーズな授業運営を求める。
- ・オンライン授業と並行して希望者は対面授業にするなどハイブリットな授業を希望する。
- ・下級生にとってかわりやすい、先輩との交流の場が欲しい。

【グループ9:医学部グループ③】

オンライン授業のメリットとして時間の使い方が効率化したことや自分で環境調整がしやすくなったこと（学生）、移動によるリスクの減少や各種関連ツールを適用できるようになったこと（教職員）等を、デメリットとして学生間のやりとりの難しさ（学生）やふれあいの機会の減少（教職員）等を中心に挙げていた。前期を過ごした感想として、学生の理解度の差が激しくなったことへの懸念（教職員）や学生間や教員との関わりが減った（学生）等が報告された。その上で、今後の提言として、オンラインの導入によって失った「臨場性」を取り戻すために、状況に応じた対面とオンライン授業を併用していく必要があることを提起した。

学生支援サミット2020
2020.9.30 (水) 13:00~16:00

医学部グループ③ プレゼンテーション

オンライン授業のメリット・良かった点

【学生にとって】

- ・ **時間の効率化**
(朝が楽になる、空き時間が有効につかえる、授業出席のハードルが低くなった、通学時間の短縮、オンデマンド授業だと自分の空いている時間に受講できる)
- ・ **環境調整**
(自分のスペースを自由に使える、気持ちが引き締められる、受講する音や場所等を自分で整えられる)
- ・ 大人数の講義でも、チャットで先生個人に質問ができる

【教職員にとって】

- ・ **移動による様々なリスクの減少**
(通勤時間が浮き、時間を有効に使える、感染のリスクが低くなる、研究室から移動をしなくてよい)
- ・ 人の授業を聞くことができる
- ・ **録画の利用** (自分の講義の振り返りや欠席者へのフォロー)
- ・ チャットで反応があると嬉しいと思う (対面ではない)
- ・ 学生1人1人の反応・表情をチェックできる
- ・ **ウェブシステムへの適応、ペーパーレス化**

オンライン授業のデメリット・良くなかった点 (改善点)

【学生にとって】

- ・ **グループディスカッションがやりづらい。**
(空気が感じ取りづらい、2人以上が話すことができない。発言が重なりすぎる)
- ・ 目が疲れやすい、肩がこる **<体の不調>**
- ・ 集中が途切れやすくなった
- ・ 学生間で通信環境に差があった。生活音が入る学生がいる

【教職員にとって】

- ・ **学生とのふれあいが少なくなる**
(カメラをオフにしていると反応が見られない。教員としても寂しく感じる)
- ・ ワークを挟んでいたのがしづらくなった
- ・ **通信環境を整える、入室管理をすることが必要となる**
- ・ **長期的に見れば関わり合いの機会の損失になる 大学の価値が減る**
- ・ 身体性の欠如 (身振り・手振りで伝わりづらい)
→自分が話しているのが相手に伝わっているのか不安に思うことがある
相手からの顔き以外での雰囲気を読み取りづらい

オンライン授業に対するその他の感想・オンライン中心だった前期を過ごした感想

【学生側の感想】

- ・ (看護) 以前は演習の発表練習を友達としていたが、その機会が激減した
- ・ **先生との個人的なやり取りする機会も減った。**
“ちょっと”の確認ができず、先生とのやり取りのハードルが上がった。
- ・ 日常的な会話をする機会が減った。
たくさんの友達と触れ合えなくなった。
- ・ **効率的に時間を過ごせるようになったのが良かったと思う。**

【教職員側の感想】

- ・ **学生の理解度の差が激しくなったのではないかと感じる。今後もその差が出てくるのではないかと懸念している。**

メリット・デメリット・感想を踏まえた上での (対面とオンラインの両方を含めた) 今後の 授業・大学教育のあり方への提言

「**臨場性**」を取り戻すために**対面授業の実施を再度検討していく**
→オンラインと対面の併用をしていく。
(学生のニーズに合った実施)
(他の高等教育機関など学外の学生に向けては
オンライン授業を検討するなど)

【グループ10:工学部・工学研究科グループ①】

オンライン授業のメリットとして自分で問題を解決する能力の向上や授業への参加のしやすさ等を、デメリットとして課題の量が多かったことやコミュニケーションのとりにくさ等を中心に挙げていた。また、前期を過ごした感想として、パソコンスキルは向上したものの、学内施設の利用制限がされてしまい困ったこと、生活費への不安等が報告された。その上で、オンデマンド授業の活用や課題の量や提出期限の教員間での共有、連絡手段や資料配布に関するシステムの整備等の提言がなされた。

学生支援サミット2020
2020.9.30 (水) 13:00~16:00

グループ10: 工学部・工学研究科グループ1 プレゼンテーション

オンライン授業のメリット・良かった点

【学生にとって】

- ・オンライン授業である分、自分で解決する能力の向上
- ・チャットでの質問がしやすく授業に参加しやすい
- ・通学時間がない分自由な時間が増える
- ・体調不良(風邪、熱)でも授業に参加しやすい
- ・黒板などが見やすい、声が聞き取りやすい

オンライン授業のデメリット・良くなかった点(改善点)

【学生にとって】

- ・課題の量が多い
- ・自分自身でしっかりと課題や連絡事項などを管理する必要があり大変
- ・学生や先生とのコミュニケーションをとりにくい
- ・通信環境に左右されやすい
- ・レジュメ等の印刷も積み重なると出費がかさむ

オンライン授業に対するその他の感想・オンライン中心だった前期を過ごした感想

【学生側の感想】

- ・PCをずっと使用していることで疲れたがその分PCスキルは向上した。
- ・あっという間に前期が終わってしまった気がする。
- ・学校の設備が使えないことによって活動が制限されてしまう。
- ・設備が使用できない分の学費免除等がない
- ・お金が必要なのに補助金の対象外になってしまい生活が厳しくなる人も出てきそう。アルバイトも少なくなっている。

メリット・デメリット・感想を踏まえた上での(対面とオンラインの両方を含めた)今後の授業・大学教育のあり方への提言

- ・オンデマンド授業をうまく活用していくことで理解が深まる
- ・必修科目だけでも先生の間で量や提出期限を話し合って学生への負担を減して行きたい
- ・授業資料をどの授業でも配布して欲しい
- ・授業に関する連絡方法を統一して欲しい
- ・学科の掲示板をオンライン上で閲覧できるようにして欲しい
- ・オンライン授業の準備をしっかりと上で授業をして欲しい(授業資料やソフトの機能の使い方等)

【グループ11:工学部・工学研究科グループ②】

オンライン授業のメリットとして授業中に質問や調べ物をしやすくなったこと、リラックスして授業を受けることができた等を、デメリットとして施設利用が制限されることや人と話す機会が減ったこと、履修登録が不安だったこと等を中心に挙げていた。また、前期を過ごした感想として、自由に時間が使えるようになった一方、オンラインでは困難な授業があったことや自分一人での取り組みが大変だった等が報告された。その上で、オンラインでできる部分はオンラインで行っていくことや登校が必要な授業の整理、授業のアーカイブ化等の提言がなされた。

学生支援サミット2020
2020.9.30 (水) 13:00~16:00

工学部・工学研究科グループ ② プレゼンテーション

オンライン授業のメリット・良かった点

【学生にとって】

- 他の人に気を遣わずに質問を行うことが出来た。(1年, 3年)
- 授業中でも調べ物をする事が出来る。(1年)
- 通学時間を他のことに使うことが出来た。(3年)
- リラックスして授業を受けることが出来た。(3年)
- 実習の授業で自主的に取り組む事に繋がった。(4年)
- 録画された授業だと受けられなかった授業を見返す事が出来た。(4年)
- Moodleに資料を載せてくれる先生が多くなった。(M1)

オンライン授業のデメリット・良くなかった点（改善点）

【学生にとって】

- 学費の使用用途が気になるようになった。(1年)
- 施設の使用制限がされている。(4年)
- 授業から落ちた際に戻る手間がかかるようになった。(1年)
- 人と話す機会が減って気が滅入った。(3年)
- 履修登録などに不安が残った。(1年)

オンライン授業に対するその他の感想・オンライン中心だった前期を過ごした感想

【学生側の感想】

- 自由に使える時間が増えた。
- 授業によってはオンラインで行うことに無理を感じた。
- バイトに申し込むことが難しくなった。
- 自力でしないといけないことが増えて辛かった。

メリット・デメリット・感想を踏まえた上での（対面とオンラインの両方を含めた）今後の授業・大学教育のあり方への提言

- 登校制限はなくてもオンラインで出来ることはオンラインで行う。
- 登校が必要な授業はまとめられるものはまとめる。
- 授業のアーカイブをもっと残して欲しい。
- Moodle をさらに有効活用する。

【グループ12:工学部・工学研究科グループ③】

オンライン授業のメリットとして移動時間の短縮や復習のやりやすさ（学生）、場所や時間の制約がないことや資料共有の便利さ（教職員）等を、デメリットとして学生や教員とのやりとりの難しさやカンニング対策の難しさ等を挙げていた。また、前期を過ごした感想として、人間関係の構築や研究の進捗に不安があること（学生）や学生の反応を受け取りづらく、試験でも苦勞したこと（教職員）等が報告された。その上で、人間関係を構築できるシステムの導入や評価方法の対策を考えていくこと等の提言がなされた。

学生支援サミット2020
2020.9.30 (水) 13:00～16:00

工学部・工学研究科グループ3

教授2名：鈴木、河内
職員2名：濱口、小川
学生2名：宮前（修士2年）
中嶋（学部4年）

オンライン授業・研究活動のメリット

【学生にとって】
コロナ対策ができる
移動時間の短縮
復習がやりやすい
疑問点をネットで検索しやすい

【教職員にとって】
場所・時間の制約がない
PC画質が担保されている
画面共有が非常に便利
生徒の顔が見やすい

オンライン授業・研究活動のデメリット

【学生にとって】
研究室内の人間関係構築
講義中の生徒間の意見交換
試験時のカンニング防止
教授との研究発表スライドの作成

【教職員にとって】
生徒の反応を受け取りづらい
→平凡な講義になりがち
カンニング対策、評価方法
各々のPCのスペックに依存

オンライン授業・研究活動に対する感想

【学生側の感想】
講義の側面では便利だが、研究室に行けないため
人間関係構築の側面ではあまり好ましくない。
卒業研究の進捗スピードが不安。
留学生が来日できない。

オンライン授業・研究活動に対する感想

【教職員側の感想】
教室管理や移動を削減できるので便利になったが、
生徒の反応を受け取りづらい。試験での苦勞。
会議では雑談が少なくなりスムーズ化。

今後のあり方への提言

【学生】
オンライン講義は学習には適しているが、人間関係を構築しづらい。
(例えば、講義中にグループワークを行ったり、先輩や誰かが率先して環境を整えたりする必要がある。)
【教職員】
学生の反応や評価方法の対策を考えなければならない。
会議はオンラインでスムーズになったので、引き続き行いたい。

【グループ13:生物資源学部グループ①】

オンライン授業のメリットとして移動や費用が軽減されること、不調でも受講が可能であること等を、デメリットとして実験・実習の実施が難しいことや体調・生活管理が乱れやすいこと等を挙げていた。また、前期を過ごした感想として、人間関係上のやりとりが難しかったことや大学に行くことへの疑問等が報告された。その上で、対面での実験・自習の実施や友人・教員と話す機会を設けること等の提言がなされた。

学生支援サミット2020
2020.9.30 (水) 13:00~16:00

生物資源学部グループ1 プレゼンテーション

オンライン授業のメリット・良かった点

- ・通学にかかる時間と費用の軽減
- ・疑問点をすぐに他の資料などで調べものが可能
- ・学内の移動が無くなり、楽
- ・授業中の質問はしやすい
- ・多少、体調が悪くても受講可能

オンライン授業のデメリット・良くなかった点（改善点）

- ・疑問点の相談が難しい
- ・実験・実習ができず、器具の使用方法的理解に不安
- ・モチベーションの低下
- ・体調管理、生活リズムの乱れ
- ・接続トラブル
- ・家族との兼ね合い

オンライン授業に対するその他の感想・ オンライン中心だった前期を過ごした感想

- ・友人に会えない孤独感
- ・コミュニケーションが取りにくい
- ・大学に行く意味はあったのか疑問に思う
- ・授業の理解度に対する不安が常にあった
- ・新しい発見をすることができた

メリット・デメリット・感想を踏まえた上での （対面とオンラインの両方を含めた）今後の 授業・大学教育のあり方への提言

- ・対面での実験・実習の実施
- ・口頭で質問できる場を設けてほしい
- ・研究室などの情報が欲しい
- ・教授、友人と話す機会を設けてほしい

【グループ14:生物資源学部グループ②】

オンライン授業のメリットとして自分のペースで履修できたこと（学生）、資料配布・出欠確認のしやすさや授業用動画が作成できたこと（教職員）等を、デメリットとして双方向のやりとりがとりにくいこと（学生）や体験の場を作りにくいこと等を中心に挙げていた。また、前期を過ごした感想として、自分のペースで履修できた一方で疲れやすかったこと（学生）や学生の状況確認の難しさや短期間での授業準備の困難さ（教職員）等が報告された。今後への提言としては、オンライン上でもコミュニケーションが取れる体制を整備することや授業実施のノウハウの教員間での共有等が提起された。

学生支援サミット2020
2020.9.30 (水) 13:00~16:00

生物資源学部グループ2 プレゼンテーション

オンライン授業のメリット・良かった点

【学生にとって】

- 自分のタイミングで視聴できた。
- 聞き逃した所を何度でも聞ける。
- 資料がMoodle上にあり、復習や学習がしやすかった。
- チャットを利用し、質問がしやすかった。

【教職員にとって】

- 資料の配布がしやすい。
- 出席が取りやすい
- 授業アンケートなどの周知がしやすくなり、回収率が上がった。
→情報伝達がしやすくなった。
- 授業用のビデオ（実験）が作成できた。→何回も視聴可

オンライン授業のデメリット・良くなかった点（改善点）

【学生にとって】

- 緊張感がなく、集中しにくい。
- 実験の実感がわからない。
- レポートが多かった。
- 議論がしにくい。
- 双方向のコミュニケーションを取りにくい。

【教職員にとって】

- 体験の場を作りにくい（学生がビデオだけみてやったつもりになってしまう。）
- 反応が見にくい、理解度がわかりにくい→ペースが速くなってしまいがち。
- 問い合わせを受けた時、オンラインだと説明がしにくい。

オンライン授業に対するその他の感想・ オンライン中心だった前期を過ごした感想

【学生側の感想】

- 自分のタイミングでいつでも受講可能なので便利。
- 慣れないことで疲れてしまう。
- 学生と教員間のコミュニケーションが取りにくい。
- 授業以外で得られること、人との繋がりが少なかった。

【教職員側の感想】

- 可能な限りのサポートはしたいけれど、実態把握が困難（事務）
→学生・教員・事務で実態の共有ができていない。
- 道具・手法・コンテンツを短期間で用意しないといけないのが難しかった。
- 講義をやる場所が限られない→休講が減少→例年とペースが異なった。
- テストがやりにくかった。

メリット・デメリット・感想を踏まえた上での（対面とオンラインの 両方を含めた）今後の授業・大学教育のあり方への提言

- 学生と教員とのコミュニケーションをオンライン上でもできるように、体制を整えていく
→質問や感想を利用した、フィードバック
オンラインならではのコミュニケーション方法を考える
- 多様な場所で行えるというメリットは延ばす
→オンラインだからこそ他大学や海外の講義を受ける
- 教員同士の授業方法やテスト作成、学生の評価方法の情報共有

○提言のまとめ

※【 】内は、提言を出したグループの学部・研究科を表している。

【授業形態に関する提言】(18件)

①対面授業を望む声やそのための対策

- ・【人文】今後、対面（ゼミなどコミュニケーションをとる授業では）を少しずつ取り入れていってほしい
- ・【教育】対面授業を増やしてほしい（学生さん）
- ・【生物資源】対面での実験・実習の実施
- ・【人文】感染対策を徹底した上で対面も可能な時期なのでは
- ・【工】登校が必要な授業はまとめられるものはまとめる

②ハイブリット型の授業形態の提言

- ・【医】オンライン授業と並行して希望者は対面授業にするなどハイブリットな授業を希望する
- ・【人文】対面授業を基本にして、補講などをオンライン授業やオンデマンド形式にする
→ネット形式をサブで使うのは？
- ・【人文】対面授業がある日とオンラインの日を分けてほしい
- ・【人文】各々の内容にあった授業スタイル(対面・オンライン)を
- ・【教育】対面とオンラインの両立について
→後ろにカメラなどを置いて、対面で受けるかオンラインかそれぞれが選択できたらより良くなるのでは？
- ・【教育】オンラインと対面がどちらもある日の対応
→喋れないのはきついので喋れるような工夫を
- ・【教育】対面とオンラインをうまくスケジュールして組み合わせられるとよい

③よりよいオンライン授業のための提言

- ・【教育】今年の経験を踏まえて、新しい形態としてオンライン授業を取り入れていくべき
- ・【工】オンデマンド授業をうまく活用していくことで理解が深まる
- ・【工】登校制限はなくてもオンラインで出来ることはオンラインで行う
- ・【人文】Zoom+録画公開の授業形態
- ・【人文】感染症が終結するまで(線引きが難しい)は、オンラインのみで
- ・【医】1コマを短く、または休憩を頻繁に

④その他教育のあり方についての提言

- ・【医】「臨場性」を取り戻すために対面授業の実施を再度検討していく
→オンラインと対面の併用をしていく
(学生のニーズに合った実施)
(他の高等教育機関など学外の学生に向けてはオンライン授業を検討するなど)

【授業運営に関する提言】(11 件)

①授業の準備・実施について教職員に求めること

- ・【医】 教師側のトラブルをスタッフがバックアップする（改善しつつあるので不要？）…ミスの防止、早急な対応
- ・【工】 オンライン授業の準備をしっかりとした上で授業をして欲しい（授業資料やソフトの機能の使い方等）

②授業資料についての提言

- ・【工】 授業資料をどの授業でも配布して欲しい
- ・【工】 授業のアーカイブをもっと残して欲しい
- ・【医】 先述した様々な理由により授業を満足に受けられない環境下では、授業用資料の提供を前もって済ますなどスムーズな授業運営を求める

③教員間での情報共有の提案

- ・【生物資源】 教員同士の授業方法やテスト作成，学生の評価方法の情報共有
- ・【工】 必修科目だけでも先生の間で量や提出期限を話し合って学生への負担を減して行て欲しい
- ・【医】 教員内でフィードバックを共有しておく

④その他の授業運営に関する提言

- ・【生物資源】 口頭で質問できる場を設けてほしい
- ・【生物資源】 多様な場所で行えるというメリットは延ばす
→オンラインだからこそ他大学や海外の講義を受ける
- ・【工】 学生の反応や評価方法の対策を考えなければならない

【コミュニケーションの機会に関する提言】(8 件)

①学生間・教員とのコミュニケーションの機会を増やす

- ・【教育】 学生さん・教員がインフォーマルに会う機会がなかったので、増やした方がよい
- ・【生物資源】 教授、友人と話す機会を設けてほしい
- ・【生物資源】 学生と教員とのコミュニケーションをオンライン上でもできるように、体制を整えていく
→質問や感想を利用した、フィードバック
オンラインならではのコミュニケーション方法を考える
- ・【工】 オンライン講義は学習には適しているが、人間関係を構築しづらい
→例えば、講義中にグループワークを行ったり、先輩や誰かが率先して環境を整えたりする必要がある

②学生間のコミュニケーションの機会を増やす

- ・【人文】 今後、オンラインでのグループワークやディスカッションが増えると思うので、グループワークを扱う授業が増えるといいと思う

- ・【医】下級生にとってかかわりやすい、先輩との交流の場が欲しい

③教員とのコミュニケーションの機会を増やす

- ・【人文】もっと先生とのコミュニケーションを取りたい
- ・【教育】先生とのやり取りがあまりなかったのもっとあるといいと思う(人数の工夫も)

【事務連絡に関する提言】(4件)

- ・【教育】オンライン授業を実施するという連絡を早くしてほしかった(下宿するかしないかなどに影響した)
- ・【工】授業に関する連絡方法を統一して欲しい
- ・【工】学科の掲示板をオンライン上で閲覧できるようにして欲しい
- ・【生物資源】研究室などの情報が欲しい

【レポート・試験に関する提言】(3件)

- ・【教育】オンラインだからと言って課題を出しすぎないでほしい
→(先生が分かっているのか不安なのは分かるが・・・)
- ・【人文】レポートに対するフィードバックが欲しい
- ・【医】学年(学びの進度)によってオンライン授業におけるレポート・試験の質を変える
→4年生:現状通りがいい 理解が深まる
→2年生:定期的な高頻度の小テスト(調べながらも可)、moodle アンケートの活用、時間制限、評価方法

【オンラインツールの使用に関する提言】(3件)

- ・【人文】画面共有を上手く活用してわかりやすく(ホワイトボード、ペン機能)
- ・【教育】チャット機能をもっと活用していくべき
- ・【工】Moodle をさらに有効活用する

【施設利用に関する提言】(2件)

- ・【人文】図書館の利用
- ・【人文】施設は存分に使用してほしいが、クラスターなど危惧

【調査結果の公表や学生支援サミットに関する提言】(2件)

- ・【教育】アンケートで1年生以外の回答数が急に少ない→フィードバックの充実が必要では
- ・【教育】1年生が不安を一番感じているのにこのサミットに上級生が多いのはどうなのか

【負担(費用)に関する提言】(1 件)

- ・【人文】もう少し授業を受けるにあたっての支援をしてほしい（用紙代、インターネット設備の費用など）

【オンライン上での会議に関する提言】(1 件)

- ・【工】会議はオンラインでスムーズになったので、引き続き行いたい

○本企画に対するコメントまとめ

- ・【学生】本日はありがとうございました。グループの人との話が充実しましたが、学部をできるだけかぶらないようにグループを作成した方が、様々な新鮮な意見が共有できて、話が広げられたかと思います。
- ・【学生】本日はこのような機会を設けていただきありがとうございました。オンラインに慣れてきた半面、慣れによるモチベーション低下が今後課題になるものと思います。課題が多くあるとは思いますが今後ともより良い大学運営に協力できればと思います。
- ・【学生】グループ分けの特徴を踏まえたフィードバックを期待しています。
- ・【学生】グループでオンライン授業の問題や改善点などについて意見交換でき、非常に有意義な時間となった。また、個人の意見として、対面の授業が実施されるようになった場合は、一日に対面の授業だけを詰め込むなどして出来るだけ移動費がかさばらないようにしてほしい。
- ・【教員】内容を有意義なものとして聞くことができました。多くのマスコミ等では、オンライン授業の弊害を声高に訴えるものが多いのですが、今回の内容から、オンライン授業が意外と好評であることを知り、今後もオンライン授業の内容に磨きをかけていくことができたと感じました。本日は有難うございました。

7. 資料

- 学生支援サミット 2020 ポスター
- 三重大学ホームページ トピックス掲載記事



学生支援 サミット 2020

テーマ：

三重大大学におけるオンライン
授業の現状と課題

前期に実施されたオンライン授業について、
授業を受ける側であった学生と
授業を管理・運営する側であった教職員が、
前期に実施されたオンライン授業を振り返りな
がら、オンライン授業についての感想やメリッ
ト・デメリットを共有し、それらをもとにこれから
の三重大大学におけるよりよいオンライン授業の
あり方についてディスカッションしていきます。

9月30日 水 13:00~16:00

Zoomにて開催

参加者
募集

「オンライン授業に物申したい!」
「よりよいオンライン授業に向けて学生や教職
員と話したい!」等々、
参加をご希望される場合は、右記のQRコード
先の参加申込フォームからお申込みください。
※教員から参加依頼を受けた方は、こちらで
お申しいただく必要はございません。



お問い合わせ先

三重大大学 学生総合支援センター (担当:風間)

TEL 059-231-6262 MAIL junki.kazama@mie-u.ac.jp

主催:三重大大学 学生総合支援センター

学生支援サミット2020～三重大大学におけるオンライン授業の現状と課題

2020年10月06日

9月30日(水)、zoomを使用しオンライン上にて、「学生支援サミット2020～三重大大学におけるオンライン授業の現状と課題」が開催されました。

本サミットは、学生・教員・職員が協働しながらディスカッションを行い、より良い三重大大学となるよう考えていく貴重な機会として、学生総合支援センター主催で毎年開催されているイベントです。本年度は「三重大大学におけるオンライン授業の現状と課題」をテーマに、学生・教職員合わせて101名が参加し、学生総合支援センター障がい学生支援室 風間惇希講師の進行のもとサミットが行われました。



冒頭、駒田美弘学長から「新型コロナウイルスの影響に伴い、本日はオンラインでの開催となりましたが、活発に議論・討論し、意見を共有していただくとともに、新型コロナウイルスが終息した後のルネサンスの大学を思い浮かべて、この学生支援サミットをより実りの多いものにしていただきたい。」と開会の挨拶がありました。



続いて、風間惇希講師より今回のテーマである「オンライン授業の現状と課題」についての説明がありました。

オンライン授業のデメリット・良くなかった点 (改善点)

- ・オンラインならではのタイムラグなどによりグループワークが大変
- ・長時間画面を見ることで身体的な疲労が溜まる
- ・自分で印刷したりコンビニに行く必要があったりするため、レジュメの準備が大変
- ・自宅での授業環境を整える必要がある
- ・オンデマンドの授業を溜めがち
- ・授業前後で他の学生と話すことがないため、友達作りの場がなくなる

授業外での準備（環境整備など）が大変
身体的な疲労や交友関係に関する精神的な疲労も

メリット・デメリット・感想を踏まえた上での (対面とオンラインの両方を含めた) 今後の授業・大学教育のあり方への提言

- ・アンケートで1年生以外の回答数が急に少ない→**フィードバックの充実が必要では**
- ・1年生が不安を一番感じているのにこのサミットに**上級生が多い**のはどうなのか
- ・**チャット機能**をもっと活用していくべき。
- ・オンラインと対面が**どちらもある日の対応**一環れないのはきついで喋れるような工夫を。
- ・**先生とのやり取り**があまりなかったのでもっとあるといいと思う。(人数の工夫も)

学生達は学部ごとに教職員を含めたグループに分かれ、グループワークを行いました。その後、各グループのプレゼンテーションが行われ、オンライン授業について学生視点や教職員視点のメリットやデメリット、今後の改善点について発表されました。

その後、教育担当理事 山本俊彦から「対面、オンラインのいずれにおいても、高等教育としての学びの質の保証という観点から、本日の意見をしっかりと受け止めて、フィードバックしていきたい。」と総括がありました。

最後に、学生支援センター長 野崎哲哉から「本日の意見をしっかりとまとめ上げた上で、今後大学として対応し、フィードバックもしていきたい。また、今後も学生・教職員が議論しながら、よりよい大学をつくっていくために協力をお願いしたい。」と閉会の挨拶がありました。

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、今年度の学生支援サミットはオンライン上での開催となりましたが、学生・教職員の積極的なディスカッションが行われ、大変有意義なサミットとなりました。

編集：三重大学 学生総合支援センター

